

## 第16回豊田市平和リレー講座のご報告と御礼

### 70名の参加者が語り部となって

豊田市平和リレー講座実行委員会 事務局長 富田好弘

安倍内閣が進めている「戦争への道」への暴走に危機感を持った市民が増大し期待と関心が高まる中で第16回平和リレー講座を4月29日に開催した。

今回の平和リレーには小学4年生、青年会議所メンバー、豊田市へ在住して4～50年となるが戦争とのかかわりについては何も知らなかった方などの参加があり70名の参加者で大成功した。

病気、急用などでの参加取り消し、定員オーバーでお断りした方など続出で広く関心が高まった中での実施であった。

訪れたコースは最初にトヨタ自動車を狙った模擬原爆落下地と渡合町を目前にしての説明、被害とパンピンの破片の現物を確認した。次にトヨタの疎開工場跡・五ヶ丘団地で車中から見学、さらに坂上町のB29 墜落地跡地で現地の中根浩樹さんから語り継ぐために記念碑を建立した経緯の説明を受けた。

昼食交流会は高橋コミセンで貴重な2人の証言を聞いた。矢並陸軍弾薬庫について、天野克之さんの証言、戦争体験者の上野成男さんのお話があった。

午後、鞍ヶ池公園駐車場で陸軍弾薬庫跡地の一部を天野さんの説明で見学した。

名古屋からの学童疎開を受け入れた寺部随應院で当時一緒に学んだ2名の同級生などのお話をうけ、最終訪問地広川町空襲被害地で8名の犠牲者が出たことの説明を受けた。現地では生々しい空襲時の証言も関係者からあり戦争の悲惨さが改めて確認された。

アンケートで30歳代の青年は「責任世代の我々が次世代につないでいかなければ風化してしまう」「生の証言はやはりすごい」「戦争の遺跡を国も市も大切に保管すべき」「参加したいと思ったのは96歳の父が戦争体験をしており」小4の生徒さんは「中日新聞を見て戦争体験がぜひ聞きたい」とお母さんと参加するなどの感想が寄せられた。「資料が細かく用意され説明、証言もわかりやすかった」「戦争は絶対許せない、来年も行きたい」と。そして準備と当日ご奮闘されたスタッフの方への感謝の声が語られていた。

今後について8月の戦争展への期待が高まる中で、参加者が語り部になることを強く呼びかけて終了した。来年の平和リレーは「上郷地域と戦争遺跡を訪ねて」となりますのでご期待を。以上